

三菱イントラネットシステムソリューション

2 F - 4

《IntraProp》(情報共有パック)

相馬仁志 山田耕一 倉地史朗† 茂木強 梅田憲

三菱電機(株) 情報通信システム開発センター †三菱電機(株) 情報システム製作所

1.はじめに

低コストで短期間に社内情報の共有化を実現するため、イントラネットを導入する企業・利用ユーザの数は、徐々に増加している。その多くは全社員を対象とした掲示板など、一般的な情報発信手段としての利用が主であり、導入効果が見えてこないというのが実状である。しかし上手に利用すれば、情報活用が促進され、モチベーションを高めると共に業務効率の向上にも寄与することになる。それには、

- 会社組織での利用に合った情報共有基盤の構築
- 人と情報が一緒に移動できる環境の構築
- 基幹系情報にアクセスできる環境の実現

が必要である。

これらの考えを基に、「情報共有」、「モバイル」、「営業支援」の3つのシステムを柱(Prop)としたイントラネットソリューションパッケージ《IntraProp》を開発した。本論文では《IntraProp》の狙いと特長、その一つの柱である情報共有パックについて紹介する。

2.開発の目的と《IntraProp》のねらい

2.1.開発の目的

イントラネットを導入する企業の真の目的は、イントラネットの特長である「利用場所を限定しない」、または「運用管理が容易になる」といったメリットだけではなく、現場のシステム利用頻度を高めることによる適切な全社情報共有や活発な情報流通である。利用者自らが情報を発信し、能動的に情報活用させる仕掛けが必要で

ある。つまり「利用者駆動型のイントラネットシステム」が重要である。そのポイントを以下に整理する。

1. 使い易いシンプルな操作性

アクセス制御されたページ毎にログインするのは操作上問題があるのでログインは1回のみとする。また日ごろ利用するワープロやメールの延長線上でドラッグ&ドロップの感覚で全社へ向けた情報の発信操作を満たす。さらに面倒なHTML変換などをさせないようにする。

2. 木目細かいアクセス制御

日本の組織(部署、役職、資格)を意識した情報単位のアクセス権の管理ができる。利用者の所属部署や役職に応じてアクセスできる情報を限定し、必要な情報のみを確実に手元に届け(逆にいえば不要な情報は画面表示しない)、業務、職位に則した情報共有を実現する。

3. 屋外でも新鮮な情報のタイムリーな閲覧と登録

モバイル環境を含むどんな環境においても、いつでも情報発信ができ、また時間を掛けずに基幹系情報を含む最新の情報を得ることができる環境とする。特に、緊急性の高い重要な情報は強制的にスクリーンにテロップ等の手法で流し、利用者に注意を促すことをする。また、携帯電話のような無線通信の場合、オンライン接続中に突然回線が切れることがあるが、この場合、処理を始めからやり直させることをさせず、回線復旧時、回線断の直前の状態から自動リカバリできるようにする。

2.2.《IntraProp》のねらい

情報共有ツールとして、本格的なグループウェアソフトの導入を検討することがあるが、高価であり、容易に全社への展開ができないという壁がある。さらに、優秀な管理者がいない環境下では情報単位の木目細かいアクセス制御の設定は現実的に不可能であり、簡易なユーザインターフェースや回線断自動リカバリ機能を提供するには相当の開発期間を要する。《IntraProp》は、この

Mitsubishi Intranet System Solution <<IntraProp>>
(Information Manager)

Hitoshi Sohma, Kouichi Yamada, Shiroo Kurachi*, Tsuyoshi Motegi, Ken Umeda
Information and Communication Systems
Development Center, Mitsubishi Electric
Corporation

*Information Systems Engineering Center, Mitsubishi
Electric Corporation

ような問題に目をつけ、前述したポイントを標準機能としてサポートするイントラネット製品として開発した。狙いを3つに絞り、パッケージ化している。

(1) 現場の担当者自らが手軽に情報を発信し、効率良く情報共有の活性化が図れる仕組みを提供する。

→ 情報共有パック

(2) 高度なレプリカ機能を開発し、従来オフィス内でしかできなかった業務もシームレスに屋外に広げ、人と情報が一緒に移動できる環境を提供する。

→ モバイルパック (本大会の講演番号 2F-05 参照)

(3) 商談パターンなど定型化されていないためにシステム化が困難であった営業業務をイントラネットを活用することで情報武装を強化し、且つ強力なモバイル対応機能を備え、シンプルな操作性を満たす営業支援システムを提供する。

→ 営業支援パック (本大会の講演番号 2F-06 参照)

3. 情報共有パックの機能と実現方式

《IntraProp》の3つの柱のうち、情報共有パックを取り上げその機能と実現方式について紹介する

3.1. 情報共有パックの機能

① コンテンツキャビネット

個人認証によるセキュリティを装備した全社ベースの電子キャビネット機能。図1に示すように認証結果をもとにユーザ毎にアクセスできる情報のみをフォルダ階層にて表示する。情報の発信は組織階層を意識した公開範囲を指定して行なうことができる。また、企業の業務、文書の流れに合わせた情報発信前の内容の検認機能や検認状況の追跡機能も装備する。

② 掲示板

テキストの入力やファイルの添付で簡単に情報公開ができるローカルグループ掲示板機能。公開範囲や期間などの属性情報を設定できる他、全文検索やソート機能を装備する。

③ フォーラム・電子会議室

掲示板機能にQ&A方式のスレッド登録を可能としたフォーラム機能や社内の特定期間だけにアクセス制御された電子会議室機能を装備する。

3.2. コンテンツキャビネット機能の実現方式

情報共有パックの中のコンテンツキャビネット機能の実現方式を述べる。

(1) ユーザ認証

ログインの際の従業員ID情報を認証フィルタリングし、INTRACENTER (本大会の講演番号 2F-07 参照) のアクセス制御を用いて人事・組織DBからアクセス許可されている利用者かどうか確認している。

(2) コンテンツの閲覧

所属・役職・資格情報をもとに閲覧できるコンテンツのみをCGIによってHTMLを動的に作り出し、階層構造のフォルダ、コンテンツビュー画面を返す仕組みを実現している。

(3) コンテンツの登録

登録の際には指定ファイルをドラッグ、そしてブラウザの登録画面上でのドロップを可能にする機能、またアクセス可能なフォルダへコンテンツをアップロードする機能は、ActiveXコントロールを利用し実現している。

(4) システム管理/人事異動対応

人事・組織DBはCSVファイルより一括で登録することができ、容易に構築することを可能にしている。さらに、人事異動への対応として、異動後も引き続き閲覧できるよう、前任業務を引きずることを想定した前任コンテンツの期限付きアクセス制御も可能である。

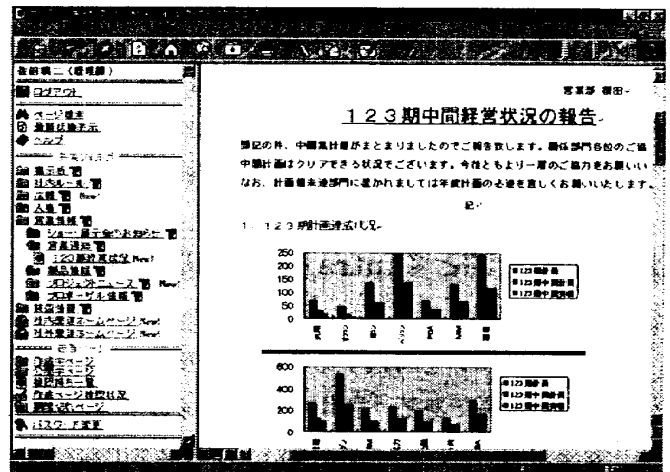


図1: コンテンツキャビネット機能

4. おわりに

インターネット・イントラネット・モバイルの技術の進歩は目覚しく、インフラとして取り巻く技術要素が大きく変化している。技術の進歩が企業情報システムの発展に大きく影響してくるであろう。今後も、その将来像を描き、主流となる技術を見極め、未来の視点から現実のシステムソリューション製品を開発していきたい。